

→ここに注目!

道徳教育と
社会科の授業

社会科 NAVI



本資料は、「教科書発行者行動規範」に
則り、配布を許可されているものです。

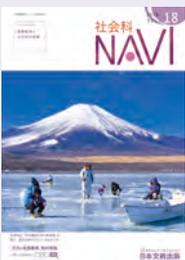
日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版



表紙写真解説

富士山と山中湖：富士山は「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録されている。山中湖もその構成資産の一部で、山中湖周辺には年間約90万人の観光客が訪れる。写真は凍結した部分でワカサギ釣りをしている様子。

写真提供/ JTB フォト

3 著者だより
見方・考え方を働かせて
立命館大学准教授 角田 将士

4 ここに注目!
道徳教育と社会科の授業
東海学園大学・名古屋大学名誉教授 的場 正美

6 わたしの社会貢献 vol.2
砺波散村の地域学習講座
砺波散村地域研究所所長 京都府立京都学・歴史館館長 金田 章裕

8 授業力アップをめざす先生のための社会科のABC
〔小学校編〕教科書を教える? それとも教科書で教える?
～本当の教科書活用法 その④～
國學院大學教授 安野 功

〔中学校編〕社会科の深い学びを創る
大阪教育大学・大阪成蹊大学・武庫川女子大学非常勤講師 丹松 美代志

10 みんなくワールドシネマ vol.18
「テレビジョン」
桃山学院大学准教授 南出 和余

12 ようこそ! 歴史史料の世界へ vol.19
古代エジプトの象形文字
古代オリエント博物館研究員 田澤 恵子

14 現代社会ウォッチング vol.6
外国からみる日本の政治ーベトナムから考える
筑波大学大学院教授 辻中 豊

16 地域からの発信
誰もがができる農業をめざして
～スマート農業の取り組み～
すみ農園 代表 住 珠紀

18 しごと図鑑
建設業の仕事
～型枠工事業編～
株式会社帯建工業 代表取締役社長 國枝 恭二

20 大人の社会見学
生誕の地で北斎を楽しむ
すみだ北斎美術館
館長 菊田 寛

著者 だより

リレーエッセイ



角田 将士 (かくだ まさし)

専門分野／社会認識教育学

主要著書／『平成29年告示 新学習指導要領 授業が変わる！新しい中学社会のポイント』（共著，日本文教出版，2017年），『新社会科教育学ハンドブック』（共著，明治図書，2012年），『戦前日本における歴史教育内容編成に関する史的研究』（単著，風間書房，2010年），日本文教出版『中学社会』教科書著者



見方・考え方を働かせて

立命館大学准教授 角田 将士

2017年8月。酷暑の中，小学5年生になった長男光太郎とともに姫路に向かいました。日本の歴史に興味のある息子は，夏休みの自由研究として，姫路城の城下町について調べたいという希望を持っていました。小学4年生の時には，自分が住んでいる滋賀県にある彦根城について調べ，石垣の様子などをデジタルカメラで撮影し，それらをマップとしてまとめた経験を持っており，今回はその姫路城版を作ろうというわけです。

彦根城の時はお城の紹介が中心でしたので，物足りなさを感じていた息子からアドバイスを求められた私は，新学習指導要領に示されている「見方・考え方」を意識し，「変化や継続」に着目してみることを提案しました。「何が変わっていて，何が昔のまま残っているのか？ それはなぜか？」といった問いを意識して調査することになりました。

今回の調査に大変参考になったのが，『中学社会 歴史的分野』（pp.114-115）の「城下町姫路を調べる」です。この頁を参考に，城下町の面影を残している場所と変化している場所とを合わせて回りながら，写真を撮影していきました。

調査のまとめとして，「なぜ昔の面影を残そうとしているのか？」について考察することにしました。現地では「姫ちゃり」というコミュニティサイクルを利用しました。通常のレンタサイクルとは違い，姫路駅を中心に各所に設置されたステーションに乗り捨てられる自転車です。その経験を踏まえ，「なぜ姫ちゃりが整備されているのか？」という問いの下，世界遺産などの歴史的遺構が持っている（に付与されている）「観光資源」としての意味にも気付くことができました。

新学習指導要領においては「見方・考え方を働かせた考察・構想」が求められています。それを実際に経験できた夏の一日でした。

道徳教育と 社会科の授業



●東海学園大学・名古屋大学名誉教授 的場 正美

1 社会科の授業で生まれる道徳

子どもが具体的な事例や自分の問題に正面から向き合う社会科の学習では、子どもの中に自然と道徳が生まれ、授業に表れる。そう思わせる授業に出会うことがある。

小学校6年でイラク問題を扱ったK教師は、暴言と暴力で荒れた教室で、逃げ出したい衝動を抑え込みながら、カルテをとり続けていた(川島, 2008)。タケシは金髪。タケシは、学級の中で、暴力・恫喝で何事も解決する。相手が、返事をぐずっていると「お前調子に乗ってんなよ、殺すぞ、ぼけ。」と威嚇している。一方、T教師が、学級活動の時に「タケシくん、しんどいことないか?」と聞くと「あんな、おれも寂しい思いをしているけどAの方がもっと寂しい思いをしているで。」と発言したことが報告されている。

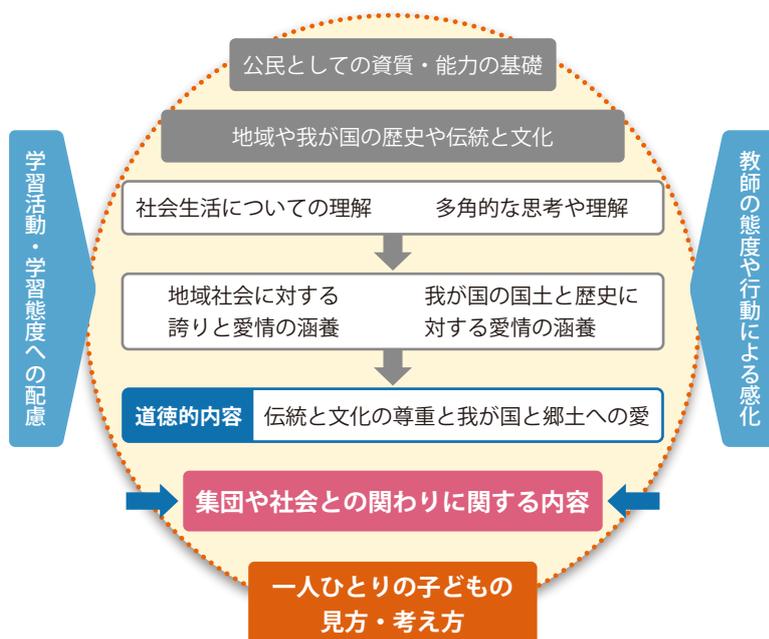
「様々な争いを解決していくためには、戦争以外に方法はないか?」という授業で、ガンジーが取り上げられ、「ガンジーのように無駄な抵抗はやめた方がいい。」という発言に対して、タケシは「やり返すで、ふつう。」(36 たけし)、「ガンジーは強いけど、俺たちとは違うねん。」(38 たけし)と発言する。授業に参加し始め、本音が出てきた箇所である。話し合いに関係ない会話が続き、T教師が「平和にできると思う?」と話題を戻すと、タケシは「できひんと思う。」と言い切る。「このクラスでも少しでも差別をなくしたい。」

「このクラスで、差別ってどんなこと?」「仲間はずれ」と発言が続いたあと、そのタケシが、「例えば、なんか持っていないと仲間はずれにされる。」と自分の体験を述べる。差別をしない心をもつためにどうしたらよいかという話題に移り「そいつの気持ちを考えて、そいつに合うなあ。なんかさあ。(考え込む) 人格?」と発言している。仲間になりたくてもなれない葛藤と相手と仲良くなりたい心と恫喝の行動との矛盾の中で、差別に自分の体験を重ね、相手の気持ちにたって考え始めている。

2 新学習指導要領の社会科と道徳

今回の改訂で道徳の指導方法について重要なことは、問題解決的な学習が取り入れられていることである。特定の価値観の押しつけ、主体性をもたず言われるままに行動するような指導は改訂の対極にあ

● 図1 社会科における道徳教育の指導



ると解説では述べ、「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る」ことが強調されている。

社会科と道徳の関係は図1のように表すことができる。外側は、教室や授業での子どもの学習態度への配慮と教師の態度や行動による感化である。社会科で扱う地域や我が国の歴史、伝統、文化を理解することを通して、地域社会や我が国の国土と歴史に対する愛情が涵養され、それが道徳につながるとされている。

日本文教出版の『小学社会』は、社会的な見方や考え方をそれぞれの子どもの社会的事象を捉えるメガネとして考え、その深まりを三つの層で捉えている。相互に浸透する第三の層〈公共〉の層で道徳が個性的にあらわれる。図の背景に、個々の子どもの見方・考え方を置いた。

3 道徳教育の呪縛を超えた 社会科の授業実践の条件

社会科が創設された時期は、社会科は道徳と深い関係があった。道徳が一つの領域として特設され、教科化されていく過程で、道徳の位置や扱いをめぐる論争がなされた。その歴史を忘却の彼方におくことなく、また、その呪縛に縛られることなく、社会科の授業を実践する者は道徳の問題と向き合う必要がある。

問題解決を実践する教師は、教材の内容の研究だけでなく、その教師の授業の見方・考え方を背景にした、次のような授業方法あるいは授業方針をもった教師である。

- ・一人ひとりの子どもにおいて違いのある多様なその子の感性や思いや捉え方を特定の価値や目標に当てはめることが如何に非人間的かということをも思想として持っている教師である。

- ・一人ひとりの子どもの学びを重視しながらも、その子の学びは他の子どもの反論や意見、異なった見方や価値観の交流の中でこそ生まれ、一人で困難にこたえてその子なりに子どもは自己を突き詰めていき、自分を形成していくという考えをもっ

ている教師である。

- ・子どもの建前論に白々さを感じ、それを超えてその子の日常の学習や生活の態度を反映した本音が出ることを願っている教師である。建前は許さないという態度、本音を出しやすい学級と授業を目指している教師である。

- ・人々の工夫や苦労や願いが含まれる具体的事実を重視する教師である。日本文教出版の『小学社会』では、そのような具体的事実が事例として挙げてある。かつて、上田薫は、抽象と具体について存在と当為の視点から「具体的にあるとは、なんらかの状態に達せんと努力しつつあることにほかならないからである。」(上田, 166)と述べたことがある。具体の中には人々の「こうありたい」「こうしたい」という願いや当為が含まれ、現在のあり方を変化させ、具現化していく。

- ・子どもがもっている感動・感情・情操を大事にしつつ、感動的な先人の働きや創作の世界を現実の生活に強引に引き込まない教師である。

- ・世界、日本、地域社会、学校、同僚、子ども、保護者、社会科、そして自分に責任をもつ教師である。責任を自覚し、問題解決を目指す教師の実践では、人々の願いや自分の生き方に関する発言が滲み出る。

- ・授業研究を通して、自己を研鑽する教師である。社会科の道徳的側面が授業で滲み出ている状態や滲み出る可能性を教師が自覚し、より深い子どもの内面に影響を与える授業を創造するためには、授業研究が必要である。

(参考文献)

上田薫 (1958) 『知られざる教育』 黎明書房
川島稔彦 (2008) 『荒れる子どもを生かす授業を求めて』 社会科の初志をつらぬく会 『生き方が育つ教育へ』 黎明書房
山崎雄介 (2013) 『教科化』は道徳教育を改善するか 『群馬大学教育学部紀要—人文・社会科学編』 64, pp.157-171

● 的場 正美 (まどば まさみ)

専門分野/教育方法, 授業研究
主要著書/『授業分析の方法と課題』(黎明書房), 『授業研究と授業の創造』(溪水社), 『社会科の新しい使命 ~『小学社会』のめざすもの~』(日本文教出版), 『Lesson Study: International Perspective on Policy and Practice』(Educational Science Publishing House)
日本文教出版『小学社会』教科書著者



砺波散村の 地域学習講座

● 砺波散村地域研究所所長
京都府立京都学・歴史館館長 金田 章裕

地域学習講座

砺波散村地域研究所は、平成15年に地域学習講座を始めた。同講座を毎年1回実施し、今年までに15回を重ねている。8月ごろに、小学生、中学生、高校生を対象に、それぞれ1日をあてて実施している。まず中学生の地域学習講座の実施状況を一覧すると、次表のようである。

実施日	中学生参加者	テーマ
平成15年8月23日	12名, 教諭1名	散村について
平成16年8月18日	11名, 教諭3名	散村について
平成17年8月17日	10名	散村の暮らしと交通
平成18年8月12日	12名	散村における建物の構造と役割
平成19年8月12日	10名	散村における建物の構造と役割
平成20年8月19日	14名	砺波平野の散村と屋敷林
平成21年8月12日	12名, 教諭1名	散村の暮らし—野菜栽培の実態
平成22年8月18日	10名, 学芸員実習生1名	散村の暮らし—屋敷林を守る
平成23年8月18日	16名, 教諭1名	屋敷林の実態を調べる
平成24年8月21日	15名	散村の暮らしと交通
平成25年8月22日	5名, 教諭1名	用水の水と私たちの暮らし
平成26年8月7日	7名	散村地域の水利用
平成27年8月7日	15名, 教諭1名	扇頂部を調べる
平成28年8月22日	10名, 教諭1名, 大学生2名	庄東地区の自然と歴史を学ぶ
平成29年8月4日	15名, 教諭5名	町と散村のつながり

平成15年の第1回から、平成24年までの計10回は、いずれも散村地域の大字（＝旧村、砺波市小島地区）レベルの地域を取り上げて散村地域の諸相を学ぶものであり、日程を別にして実施した小学生の講座は散村の1軒の農家の単位、高校生の講座は砺波平野全体を視野に入れた単位で実施した。

第11回から今回の15回にかけては、少し構成を変えた。高校生には、見学後の発表と意見交換に重点を置き、小学生は4年生に限定して、父母



▲ 洪水で移転した村について学ぶ（平成28年）

いずれかの同伴を原則としている。同時に中学生については、一つのトピックについて、地形図ないし住宅地図を持って、実際に現地を見学あるいは調査する形としている。

中学生の講座

ここでは、中学生の地域学習講座の実施状況を、やや具体的に紹介したい。

朝の集合の後、集合地点の研究所、あるいは教室を借りた中学校において、先ず筆者が学習対象ないし関連の事象についての説明を行う。これによって



▲ 出発前の事前学習（平成29年）

中学生各自は、対象について一定の知識を取得することと、目的について理解することが期待される。

見学あるいは調査後は研究所に戻るか、時には現地の学校や集会所などで、レポートを作成し、必要に応じて筆者や研究所員が質問に答える。さらにその趣旨の口頭発表をしてもらい、それについて質問や討議を行う。その上で、筆者が感想や講評などを述べた後、各中学生に修了証を渡すこととしている。

この地域学習講座の一つの特徴は、中学生の講座であれば、中学校の教諭の参加も認めていることであり、参加の経験が授業へ反映されることを期待している。参加者は10～15名を期待しているが、年によってばらつきがある。



▲山城の城下町を見学（平成28年）

テーマは、第10回までが散村の暮らしの状況や、交通手段（通勤・通学・買い物における自家用車・自転車・バス・列車などの利用状況）、農家の屋敷内の建物（アズマダチ、マエナガレなどの様式や附属建物）や屋敷林の状況、自家用野菜栽培の状況などを調べることを目的とした。数人の中学生グループ毎に研究所所員が1～2人付き添って、各グルー



▲大ケヤキの由来を学ぶ（平成29年）

プが約20軒を担当して調査した。

次の4回は、扇状地上の用水の在り方や、扇頂部・庄川右岸地域の状況などを観察し、今年（第15回）はまず、中心集落である出町の発達や構造について見学した。その後やはりグループごとに空き店舗の状況について1軒ごとに調査を実施した。

効果と課題

目的はまさしく地域学習であるが、さらには生徒の地元理解への機会の提供と、地域の実態への接近の方法についての経験の提供も目的である。教諭を通じて、これが地理的分野の「身近な地域の調査」などの授業へ反映されることも期待している。

かつての受講経験者が大学生となって再度参加してくれた例があり、効果の一証と思われる。しかし中学生の場合もまた、クラブ活動などで夏休み中でも多忙である。日程調整が難しいことは、参加者数の変動にも反映している。

●金田 章裕（きんだ あきひろ）

専門分野／人文地理学

主要著書／『古地図からみた古代日本』（中公新書、1999年）、『古代・中世遺跡と歴史地理学』（吉川弘文館、2011年）、『江戸・明治の古地図からみた町と村』（敬文社、2017年）

日本文教出版『中学社会』教科書著者



社会科のABC

小学校編

教科書を教える？ それとも教科書で教える？

～本当の教科書活用法 その4～

● 國學院大學教授 安野 功

今回は、資料を組み込んだ板書の作成がテーマです。これは、前々号ですでに述べた教科書分析の②の詳しい解説になります。ポイントは三つあります。

一つ目は、社会科における板書の役割をしっかりとおさえておくことです。

板書には、集団の思考を方向づける、整理するなど、“学びの羅針盤”としての役割があります。そのことをふまえ、社会科では、「問題解決の道筋（流れ）を可視化する」ことが大切です。どんな事実から子どもの「問い」が生み出され、どのような見通し（予想）をもって問題の追究へと向かっていったのか、その解決の決め手となった中心資料は何か、その資料から読み取った事実をどのように関連づけたり、意味づけたりして解決へと導いていったのかなど、子どもの思考の流れが見える板書を工夫することが求められるのです。

二つ目は、黒板のゴールの姿をイメージしながら、「板書のレイアウトを工夫する」ことです。

具体的には、①本時の目標に迫る中心資料、②導入の資料とそこから引き出す「？」（学習問題）、③「！」（本時の学習問題に対するみんなの考え）を、黒板のどこにどのように配置するのかわ、①→②→③の順に吟味・検討し、板書のレイアウトを決めていくのです。

三つ目は、「子どものどんな反応を取り上げ、板書にどのように位置付けるのか」を子どもの実態に応じて幅広く予測しておくことです。

社会科の授業では、教師の期待する反応と子どもの実際の反応との間にズレが生じるのは日常茶飯事です。そのことをふまえ、柔軟な対応ができるよう、様々な反応を予測して板書計画を作成する必要があります。

なお、そのズレが生まれやすいのは、授業の山場での中心資料の活用場面です。それをふまえ、下の板書例では、日本の自然災害について、気候と大地の変化に起因するものを上下に分けて提示し、それらが何によって起きるのかを視覚的に問いかけているのです。

? 日本では、どんな自然災害がおこっているのだろう。

さまざまな自然災害

日本でおこる自然災害とは？

土砂くずれ 土砂で家がつぶされる 大雨で山がくずれ	高潮 道路が川のように 船で助けられている	竜巻 電柱がたおれる 大きな力	大雪 いつでも どこでも だれでも
地震 線路がめちゃくちゃ たくさんの人ひなん	液状化 道路がどろに	津波 船も家も めちゃくちゃ	噴火

なぜ、これほど自然災害が日本で多いのか？

日本では、毎年のように台風や地震など、さまざまな自然災害がおきている。いつでも、どこでも、だれでも自然災害にあうことがわかった。

気候

大地の変化

写真提供：朝日新聞社、共同通信社、時事通信フォト、読売新聞社

「板書のレイアウト」を工夫して「問題解決の道筋を可視化」し、子どもの反応に柔軟に対応しよう！

●新学習指導要領の移行期間を迎えて

2017年3月に告示された新学習指導要領が、いよいよ4月より移行期間に入ります。新学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」をめざしています。そこで、社会科の深い学びとは何かを探ってみたく思います。

動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法である」としています（中学校学習指導要領社会 解説編）。

●協同学習の視点から深い学びを探る

■ [授業成立の要件] ~教科による~



社会科の真正な学び、すなわち社会科ならではの、社会科らしい学びを実現するためには、「学び合う関係」と「ジャンプのある学び」（教科書レベルを越える高いレベルの課題へのチャレンジ）が必要になります。「学び合う関係」を築くためには、自分の意見を通すことより、相手の意見を聴くことが肝要です。そして、教師には、率先して、生徒の声を聴くことが求められます。

教科書レベルを越える高い質の学び、すなわち、「深い学び」を実現するには、社会科がどんな教科かが絶えず問われる必要があります。また、新学習指導要領の求める深い学びを実現するための社会科の見方・考え方は、「課題を追究したり解決したりする活

●歴史的分野の深い学び

協同学習の理論の柱の1つである「学習科学」では、人はどう学ぶかを研究し、学習者中心の学びを提唱しています。そこでは、歴史学者のように学習者が1次資料から歴史を読み解くことを求めています。

深い学びの例として、大阪教育大学附属平野中学校の井寄教諭（2008年当時）の「一遍聖絵から中世社会の特色を考える」という授業（10時間の単元）を紹介します。国宝「一遍聖絵」から4つの場面を選び、生徒に追究させ、各自に1,000字のレポートを作成させました。そこには「13歳の歴史家」が誕生していました。



写真は、一遍が最初に布教のため訪れた大阪・四天王寺の門前です。今でも、この門前では彼岸の日に人々が集い、沈みゆく太陽に合掌する姿の見られることを生徒に気づかせ、現代とのつながりを示しました。生徒は、一遍聖絵を通して、中世社会と対話し、深い学びを実現しました。

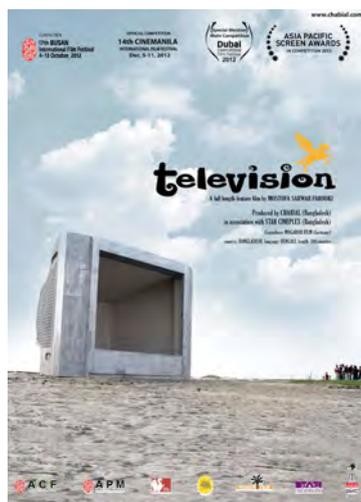
「テレビジョン」

2012年 バングラデシュ映画 106分
監督/モスタファ・サロウル・ファルキ

● 桃山学院大学准教授 南出 和余



© Chabial



▲ 「テレビジョン」オリジナルポスター

「正しいムスリム」の選択

バングラデシュ東部ノアカリ県の農村でリーダー（マタボール）を務める敬虔なムスリムの主人公は、村にテレビが入ってくることを断固として阻止していた。電話も必要最低限のみ、海外渡航に必要なビザの取得も認められていなかった。バングラデシュの他の地域では当然のごとく普及しているこれらのものの便利さを知る村人たちは、多少の窮屈さを感じながらも、マタボールに反発できずにいる。息子のスレイマンも、父に内緒で付き合い合っている彼女から携帯電話を持つことを迫られても、父には反抗できない。

ある日、村に住むヒन्दゥー教徒の家庭教師クマールがテレビを買って帰ってきた。イスラームの教えに反することを理由に禁じているテレビをヒन्दゥー教徒のクマールに禁止することはできない。家の中で他

の村人たちには見せないことを条件に、認めざるを得なかった。しかしその日から、村の子どもたちが挙ってクマールの家に「勉強を教わりに」集まるのであった。こうしたマタボールと村人たちの交渉が滑稽に繰り広げられるなか、メッカ巡礼を盾にビザの取得を許可させようとする商人がやってくる。マタボールは渋々ビザの取得を解禁し、彼自身も悩んだ末にパスポート用写真の撮影に応じる。しかし、巡礼に行くべく村から首都ダッカに出てきた彼を待っていたのは、その意に反して、「テレビの中の巡礼」であった。

テレビ、携帯電話、写真、そして恋愛、生活を便利に潤すこれら「近代の産物」を享受することはイスラームの教えに反するの？ 宗教を超えてバングラデシュの人々が価値をおく大切なものは？ 本作は、現代社会における宗教の在り方を問いつつ、バングラデシュの人々のユーモアと温かさが感じられる「喜劇」である。



🎬 「ベンガル・ムスリム」 というアイデンティティ

👤 ンガル民族でイスラーム教徒（ムスリム）が人口の約9割を占めるバングラデシュ。国家の歴史を振り返ると、1947年のインド・パキスタン分離独立においてはイスラームを旗印に同じ民族が暮らすインド西ベンガル州とは袂を分かって「東パキスタン」に、そして1971年にはベンガル（とくに母語のベンガル語）をアイデンティティにバングラデシュとして独立した。人々は「ムスリムであること」「ベンガル民族であること」そして「バングラデシュ人であること」の本質を問いながら、同時にグローバル社会で生きていく道を模索している。本作をそのような視点から見ると、宗教だけでは捉えきれない「バングラデシュらしさ」を感じる作品である。

本作の舞台であるノアカリ県は、洪水などの自然災害に頻繁に見舞われ、国内でも貧困のイメージが強い地域である。人々の信仰心は強く、また方言に特徴があることでも知られている。本作がノアカリ県を舞台としていることは、イスラームを「対近代」というある種のステレオタイプの俎上に乗せている。

そうした土地柄を背景に、主人公は、テレビや携帯電話を否定し、家族や村人たちに対して聞く耳を持たない「厄介なリーダー」でありながらも、どこか憎めない。彼のイス

ラーム信仰の厳格さは、いわゆる原理主義的イデオロギーを彷彿とさせるものではない。周りの村人たちも、そんな主人公をどこか慕い、逆らわずとも従わず、時に目を盗み、あの手この手の知恵をしぼって何とかすり抜けようとする。その交渉は機知とユーモアに富んで滑稽でさえある。映画の後半、息子スレイマンは、父親の厳格さと彼女への思いに挟まれ、意を決して反旗を翻すが、すぐに罪悪感に苛まれて父親に詫びて泣きつくのである。

この、強さの中にある弱さ、弱さの中にある温かさや憎めない人懐っこさには、バングラデシュの人々の、宗教や民族を超えた人間味が感じられる。「正しいムスリム」の在り方を求める中にも「正しさ」だけでは説明できない豊かさがある。バングラデシュの約9割の人々にとってムスリムとしてのアイデンティティは重要でありつつも、それは同じ民族のヒンドゥー教徒との対比や、東パキスタン期にはベンガル・ムスリムのイスラームの不純性が西パキスタン（現パキスタン）からの差別の対象でもあった。しかし、宗教は他者との比較や「正義」ではなく、自然のなかで、現代社会のなかで、ひいてはグローバル社会のなかで生きていくうえでの人々にとっての支えでありアイデンティティであればよい。本映画はバングラデシュからのそのようなメッセージを代弁しているかのようである。



▲ みんぱくワールドシネマ・チラシ

国立民族学博物館(みんぱく)では、2月10日(土)の映画会「みんぱくワールドシネマ」で、「テレビジョン」を上映します(無料。ただし、展示観覧券が必要です)。

📄 詳しくはみんぱくのホームページ <http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/> をご覧ください。

● 南出 和余

(みなみで かずよ)



専門分野

文化人類学、バングラデシュ地域研究

主要著書ほか

『「子ども域」の人類学—バングラデシュ農村社会の子どもたち—(昭和堂, 2014年)、『「学校化」に向かう南アジア—教育と社会変容—』(共編著, 昭和堂, 2016年)

古代エジプトの象形文字

●古代オリエント博物館研究員 田澤 恵子



▲ エジプトのカルナク神殿の壁に刻まれたヒエログリフ (著者撮影) ▶

ヒエログリフとは？

古代エジプトでは、長い歴史のなかで使用時期は異なるものの、ヒエログリフ（聖刻文字）、ヒエラティック（神官文字）、デモティック（民衆文字）、コプティック（コプト文字）の4種類の文字が使われていた。そのうちのひとつヒエログリフは象形文字の代表であり、ギリシャ語で「聖なる彫られたもの」という意味である。ヒエログリフは、古代エジプトに統一王朝が成立する前の紀元前3300年頃にはその原形が認められ、また紀元後4世紀までは使われていたことが確認されている。つまり、世界最古の文字と言われる楔形文字の成立とほぼ同時期には誕生しており、且つ楔形文字よりはるかに長く使われていたということである。

ヒエログリフについて注意しなければならない



ことは、一つ一つの文字が単に象^{かたど}られたものを意味しているだけではない、ということである。古代エジプトのヒエログリフは表意文字であると同時に表音文字でもあった。そのおかげでヒエログリフの解読が成功したとも言える。ヒエログリフは、一つ一つの文字が音（子音）を持ち、その音の組み合わせで意味を形成する文字体系でもあったのである。

■ ヒエログリフが刻まれたものと内容

ヒエログリフは、その名が示す通り聖なる文字として神殿や墓の柱あるいは壁面、石碑、彫像、ピラミッドなどに刻まれ、また数こそ多くないもののパピルスにインクで記されることもあった。内容は、神々への賛歌や供養文、王の業績や復活のための呪文などで、記念碑的な意味が多分にあった。本欄で紹介するのは、末期王朝時代（紀元前7世紀～紀元前4世紀）にプセムテクという人物のためにつくられたウシェブティと呼ばれる小像である。ウシェブティ（もしくはシャブティ）とは墓に副葬される小像で、右上の写真はファイアンスという焼き物の一種で作られているが、その他に木や石などでもつくられた。古代エジプト人は、死後に来世で再生・復活することを願って生きているうちから様々な準備をしたが、この小像は、死者が来世で作業に駆り出された際の代行者として副葬されたものである。下半身に刻まれたヒエログリフは死者の書第6章「ウシェブティを働かせるための呪文」で、被葬者が作業に呼び出された時には代わって返事をするように、と刻まれている〔右記参照〕。



▲ プセムテクのウシェブティ
(高さ 15.2cm, 幅 4.5cm ファイアンス製 古代オリエント博物館蔵 AOM2585)

*i wšbty ipn ir ip.tw Wsir imy-r
pr-hd psmtk rn.f i^h-ms m^{3c}-hrw
ms n b³stt-ir-dis r ir k³t nb(t) irt
m-m hrt-ntr imht i im m s r hrt.f
m^c.kwi k³.tn ip.tw.tn r nw nw
r^c-nb (r) irt im r srd sht smhy wdb
r hn s^cy n imntt r i³bt m kwi k³.tn*

おお！これらのウシェブティたちよ。もし、オシリス・プセムテク、宝物庫の長官、善き名イアフメス、声正しき者、バステイルティスが産みし者が、死者の領地一見よ、そこは困難に満ちている—でなされるべき全ての仕事を、人として彼の義務放におこなう為に呼び出されたら、汝らは「私はここにあります。」と言うべし。
汝らは、日々の相応しい時にそこで仕えるために呼び出される。作物を育て、岸辺を灌漑し、西の砂を東に運ぶために。「私はここにあります。」と汝らは言うべし。(死者の書第6章)

■ 古代エジプトの象形文字が現代の我々に遺したもの

現在、我々が毎日読んだり書いたりしているラテン文字(いわゆる英語の授業で習うアルファベット)は、古代エジプトのヒエログリフがなければ存在しなかったかもしれない。何故なら、アルファベットの源になったフェニキア文字を生み出した原シナイ文字(シナイ半島で発見された文字)は、ヒエログリフに接触した西セム語系の人々が頭音法(頭字法とも言い、元の単語の語頭の音<子音や音節>を表音文字として使う方法)によって生み出した文字だからである。例えば、ヒエログリフで「家」を象った文字に対して、西セム語系の人々

は自分たちの言葉で「家」を意味する単語「ベイト(Beit)」の頭文字Bの音を当てはめた。こうして、元のヒエログリフが持つ音とは無関係に、古代エジプトの象形文字が表すモノと西セム語の音が対応して原シナイ文字が出来上がり、フェニキア文字を経てギリシャ文字へとつながり、やがて現在のラテン文字へと引き継がれたのである。

● 田澤 恵子 (たざわ けいこ)

所属／古代オリエント博物館 研究員

専門分野／エジプト学

主要著書／*Syro-Palestinian Deities in New Kingdom Egypt: The Hermeneutics of their Existence* (Archaeopress, 2009年), *Astarte in New Kingdom Egypt: Reconsideration of Her Role and Functions* (Transformation of a Goddess: Ishtar – Astarte – Aphrodite, pp.103-123, Vandenhoeck & Ruprecht, 2014年), 『世界女神大事典』(共著, 原書房, 2015年)

外国からみる日本の政治 ーベトナムから考える

●筑波大学大学院教授 辻中 豊

日本の隣国の一つベトナム

2017年には、2月と12月の2回、ベトナムで「公共政策過程」の集中講義をする機会がありました^{*1}。これまで10か国を超える国の市民社会の調査をし、また大学の国際交流の仕事もあって30を超える国々を訪れましたが、ベトナムはもっとも親近感を覚えた国の一つです。

おそらく人と人の関係、この連載ではソーシャルキャピタル（社会関係資本）と呼んできたものの在り方が近いからのように思います。年二度の米作りをする農村の姿や、人々の顔かたちも、日本人と共通するものがあります。

国の「形」が近いこともその原因の一つでしょう。ベトナムは33万平方キロと日本より少し小さいものの、ほぼ同じような南北に長い国、国民は9600万人で、キン（越）族が86%を占めます。53と多くの少数民族を抱えており、この点は日本と異なります。国としての歴史は、紀元前207年建国の南越国に発するとされ、その後前111年、前漢に征服された後、およそ1000年間、中国の諸帝国の支配をうけます。10世紀に独立し、およそ950年の間にいくつかの王朝が続き、19世紀末にフランスの植民地となります。第二次大戦中しばらく日本が進駐し、大戦後に再び侵入したフランスとの戦争をへて近代国家として独立、東西冷戦下で南北に分かれ、アメリカとのベトナム戦争をへて1976年に再統一した、こう書くと、日本の歴史よりずいぶん複雑ですね。

ただ政治の土壌となる社会でのソーシャルキャピタルの存在、つまり人間の関係における信頼、お互い様の感覚、さまざまな人々と集団のネットワークの在り方には日本と近いものが存在します。院生たちは、日本の経験からベトナムの社



▲ ホーチミンの通勤風景

会問題を解決する公共政策を学びたいと眼を輝かせています。実際、公共政策が必要とされています。道路にはバイクが川の流れるように一日中溢れかえり、歩行者は横断もままならず、水も大気も汚れ、環境問題も深刻です。

他方で、現実の政治体制の違いも明確です。自由な選挙や人権と市民社会という言葉はタブーではないものの、公然たる批判を許容しない共産党の一党支配である事実は、隣の中国と同様です。

日本と似た点がありながら、 政治体制の異なる国々

このように、日本と似た雰囲気社会が、なぜ全く異なる政治体制に至ったかは、日本の政治とは何か、また政治の発展とは何かを、考えるうえでも大切です。同様の「なぜ」なのだろうという感覚は、ほかのいくつかの国でも感じました。例えば、トルコやメキシコ^{*2}もそうでした。

親日的な国の一つとされるトルコは、日本の大日本帝国憲法（1889年）に先立って非西洋諸国で初といってよい近代憲法（オスマン帝国憲法）を1876年に制定しながら、1年後に憲法を停止した国です。日本からも刺激を得て1923年には西洋型近代化を目指す世俗主義的なトルコ共和国が成立しました。その後の複雑な歴史はともかく、一定の民主化は進むものの、OECD加盟国となり一人当たりGDPが1万ドルに近づいている現在も「部分的に自由」な体制にとどまっています。

メキシコも一人当たりGDPが1万ドルを超えているOECD加盟国ですが、もう少し自由度が高く、「部分的に自由」な体制と「自由」な体制を行き来

する境界線上にあると評価されています。日本と最初の平等条約（日墨修好通商条約1888年）を結んだとされるメキシコは、ラテンアメリカ諸国の中では日本との関係も深い国です。1821年に独立し、1929年から2000年まで制度的革命党の権威主義体制が続いたとされます。

トルコやメキシコはともに日本とよく似た社会的雰囲気を感じさせるソーシャルキャピタルを有しながらも、その後の政治発展の歩みは複雑であり、日本との違いが目立ちます。

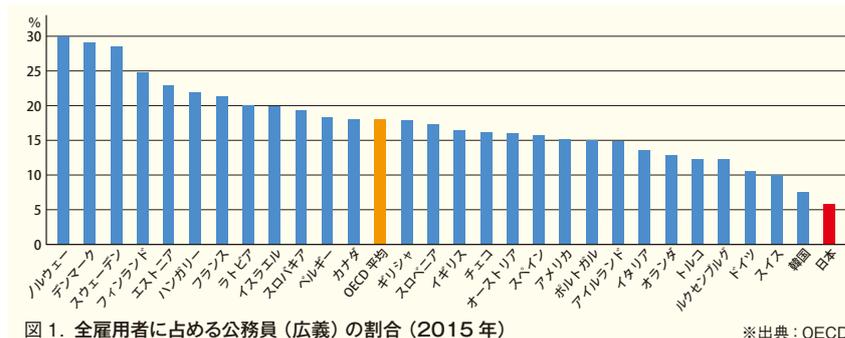
日本政治をみる比較のフレームを変える

この小論では、政治発展の違いを系統立てて述べることはできませんが、日本を、単純に欧米諸国との比較でみる見方が「偏った」ものであることを自覚したいと思っています。そのため、中国、アメリカ、ロシア、バングラデシュと普通の日本政治比較とは異なる角度から、日本との比較を試みてきました。

最後に2つの図表を見てみましょう。

一つは、政治の担い手である政府で働いている人（広義の公務員）が雇用者全体に占める割合です（図1）。これは通常よくなされるOECD諸国との比較で日本をとらえる方式です。日本の公務員の割合がOECDで最少である、それも極めて著しいことが分かります。日本の公的セクターで働く人の割合が先進国最少である点はこの図を見れば自明なのですが、一般に、特にマスコミではそう捉えられていないことが多いのであえて引用しました。

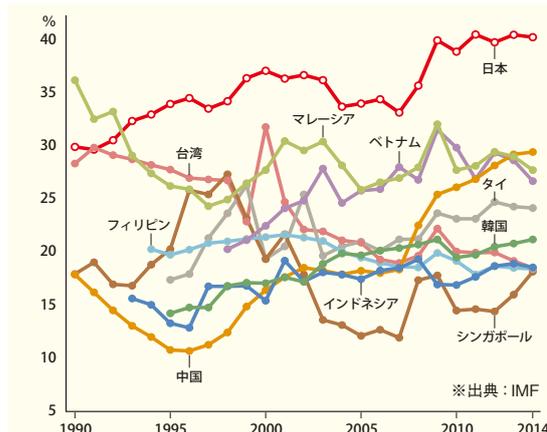
もう一つは、広義の公務員の割合のデータがアジアでは入手しにくいいため、政府支出のGDPに占める割合を示すグラフを示します（図2）。日本は、



辻中 豊（つじなか ゆたか）

専門分野／政治学

主要著書／『大震災に学ぶ社会科学 第1巻 政治過程と政策』（東洋経済新報社、2016年）、『現代日本のNPO政治—市民社会の新局面（現代市民社会叢書）』（木鐸社、2012年）、『利益集団（現代政治学叢書）』（東京大学出版会、1988年）、日本文教出版『中学社会』教科書著者



※出典：IMF

OECD加盟国中では平均を下回りますが、ほぼ中位にあります。この図からわかるのは、アジア諸国では、日本よりずっと少ないことです。公務員の割合もアジアでは日本より少ないと推定できます。

この2つのグラフはそれぞれ興味深いのですが、今回の結論として述べたいことは、日本を、先進国の中だけでみても、またアジアの中だけでみても、それは一面的ですよ、という点です。

なぜ、日本の公務員（割合）が少ないのか、なぜアジアではもっと少ないのか、そして、なぜ日本では、こうした少ない公務員によって、効率的に効果的に政治行政、そして社会が運営されているのか、疑問は尽きないところです。またそれは、社会的なイノベーションや政治社会の仕組みや相互関係と大いに関係があります。次回はそれらを総括してみたいと思います。

※1. 日本政府とベトナム政府が合意して、2016年秋にハノイで開学した日越大学の公共政策プログラム。
<http://vju.vnu.edu.vn/en/menu/academics/public-policy>
 ※2. 両国の評価については、
<https://freedomhouse.org/report/freedom-world/freedom-world-2017>を参照。



誰もができる農業をめざして

～スマート農業の取り組み～

●すみ農園 代表 住 珠紀

植物を育てるのが ライフワーク



▲スマート農業による作業

私の田舎は飛騨地方である。集落の人は皆、家庭菜園をもっている。私の家も同様だ。畑の一角には、保育園のときから私専用の畑がある。親がつくってくれたのだ。それが親の教育方針だったようだ。「好きなものをつくりなさい。」と親から言われ、子どもながらに考えに考え、イチゴをつくっていた。それが楽しくてたまらなかった。そのころから、知らず知らずのうちに“つくって食べる”という楽しさを味わっていたのかもしれない。

中学生になり、漠然と農業高校



へ行きたいと思っていた。しかし、当時は女性で通っている子はおらず、親に反対をされた。今は女性が多く通っているの、驚きとともに時代の変化も感じている。

背中を押したのは 東日本大震災

私はそれまで旅行会社で一心不乱に働いていた。2006（平成18）年、母の遠距離介護が始まった。今まで特段考えていなかった生活が突然始まったのだ。たたみかけるように、2010（平成22）年には義母の介護手続きに走り回るようになった。忙しい毎日を過ごしているうちに自身の体調を崩し、同年に手術、そして入院、休職をせざるを得なかった。

仕事と介護の両立にモヤモヤと悩んでいたことも重なったのか、病気が再発した。そのため2011（平成23）年に再度休職の手続きを余儀なくされた。旅行会社での仕事に無力感を感じていたその時、東日本大震災が起こった。それが転機となり、もともとやりたかった農業への熱き思いが高まり、一念発起して休職を退職に切り替える決断をした。

スマート農業？

2012（平成24）年に就農した。当時は露地栽培をしていた。台風によられたり、日照不足に悩まされたりと大変だった。それまでスマート農業については全く知らな

かった。愛知県農業大学校での研修後に通った豊橋科学技術大学でのことである。“スマート農業”という何やらあまり耳にしないものについて学ぶことができた。学んでいる間は、露地栽培で体力勝負の農業をしていたが限界を感じていた。そのような中、「一生の仕事＝歳をとっても続けられる仕事」にするには施設園芸かつ、ITを利用して工業的に農作物を生産する手法しかないと思った。そして2015（平成27）年、スマート農業への道を歩み始めた。

さて、スマート農業とはどのような農業かご存知だろうか。一口で言うなら、予測に合わせた生産が可能（露地野菜の場合は台風や雪害などの天候被害や作業の増減が発生するため）な農業のことである。そう、体力勝負ではなく、機械を駆使して身体への負担が少ない農業のことだ。私がつくっているトマトを例に話そう。まず、土を耕す必要がない。ココ培地と



▲ココ培地

いうものがその代わりにする。そこにはセンサーがついていて、トマトが水を1日で何CC吸ったのかなど、コンピュータが解析し、必要な分量を常に割り出して水や

温度管理	暖房機	温度センサーにより1日を4段階で温度管理ができる
	循環扇	空気の流れが止まらないように管理。15分単位で管理可能
	谷換気	温度センサーにより開閉する
	カーテン	時間により開閉する(遮光のため、保温のため)
CO ₂ 管理	光合成促進機	CO ₂ センサーによりハウス内二酸化炭素を希望濃度に調整
水管理	灌水制御盤	灌水を希望時間、希望量、肥料を希望濃度に調整して1株ごとに配水

▲コンピュータで管理されたトマト栽培の内容



▲スーパーで販売されるトマト

りを行う。人の勘ではなく、データのできる農業なのである。



▲機械へのセット

📶 ゲストティーチャーと学校給食

瀬戸市には数えられるぐらいしか農家がない。そう、私には今のところ競争相手がいないのだ。10月からは瀬戸市内の学校給食にハクサイを提供している。学校給食となると量が半端なく多い。そのため瀬戸市役所のアグリカルチャー推進プロジェクトチームの方々に手伝ってもらい、収穫・出荷をしている。おまけに、瀬戸市立水野小学校でゲストティー



▲ゲストティーチャーとしての授業

チャーもやらせていただいた。食材のハクサイとスマート農業で育ったトマトについて熱く語った。

📶 スマート農業にも苦労はある！

作業は簡潔になったが、植物を観察するのはやはり人間である。植物を見る目がまだまだ養われていないので、判断が遅れてしまうことがある。

また、機械は入力をすれば指示通りに動くが、人はなかなか動かない。経費のうち人件費が最もかさむので、労務管理が一番の苦労の種である。



▲スマート農業での収穫

📶 これからのストーリー

就農して丸5年が経った。まだまだ規模拡大を図っていきたくと考えている。

まずはGAP（農業生産工程管

理）に準じた作業環境をつくることだ。GAPとは、食品安全、環境保全、労働安全、持続可能な土地管理等について、かなり細かく決められたものである。私には縁のない話だと思っていたが、最近のニュースで私が卸している大手スーパーが将来的にGAPを採用している農家としかお付き合いをしないということなのだ。大手スーパーが発信すると、おそらく他も準じてくるので将来はGAPを取得していないと販路が拡大できなくなるのではないかと思っている。とは言っても、現在全国で認証を受けている割合は1%にも満たない。しかし、2020年の東京オリンピック・パラリンピックではGAP認証が必要不可欠になると言われており、GAP元年の様相である。

次に、現在とほぼ同じシステムでイチゴの生産を検討している。栽培時期がトマトと同じため、そこが悩みの種である。

今後のスマート農業は、よりハイテク化すると考えられる。それを使いこなし、更なる発展を遂げていきたい。

建設業の仕事 ～型枠工事業編～

●株式会社帯建工業 代表取締役社長 國枝 恭二

Q 型枠工事とは？

A 皆さんはコンクリートでできたビルや学校、病院、あるいは橋などを街のあらゆるところで見ていることと思います。元は砂利やセメント、水が混ざったドロドロのコンクリートが、なぜあの形をしているのか！なんてあまり考えることはないでしょう。私たちの仕事である「型枠工事業」とはそのコンクリートを設計図通りの形に成型する、文字通り「型枠」を造る仕事です。平面の設計図から立体になったときの姿を創造し、コンクリートを流し込んで精度を保ち、なおかつ壊れない「かた」を造ります。流し込んで一定期間が過ぎると強力で固まりますので、「型枠」はすべて取り払ってしまいます。ですから「型枠」そのものを皆さんが見ることはありません。しかし、そこにできている構造物は紛れもなく私たち型枠大工が形づくったものなのです。いかに設計図通りに精度良く、しかも美しい構造体を造れるかが型枠職人としての腕の見せどころです。

Q 四季の中での作業

A 北海道の四季ははっきりしています。建物の骨格を造る我々の仕事は常にアウトドア作業です。夏は気温30℃を超える日が何日もあります。ですが、例外なく夕方には涼しい風が吹いてきますので、炎天下の仕事でも対応ができます。冬は氷点下20℃以下という厳しい寒さですが、防寒具をフル装備にして頑張っています。

最近地球温暖化の影響なのか、

昔のような寒波は少なくなりました。やがて待ちに待った春が来ます。この時季のわくわく気分は北に住む者にしかわか

らないでしょう。仕事もやりやすいのですが、山菜採りやジンギスカンで乾杯！もこの頃から始まります。秋には農作物や海産物が旬を迎えます。作業所では安全大会と称した懇親会を年に数回開催し、業者間のコミュニケーションアップを図ります。なぜなら、型枠工事業は協同作業のため、意思疎通がとても大切になってくるからです。ですので、これも仕事に対する大事な作業の一つなのです。



▲ 親睦を深める安全大会

Q 北の建物は暖かい

A 北海道は積雪寒冷地のため、建物が丈夫にできています。特に基礎は地面の下1m以上深く造らないと、凍結して家そのものが持ち上がって（凍上^{とうじょう}といいます）しまうので、特に頑丈な造りになっています。ここが型枠工事の大切な、そして力が入る作業になってきます。寒さを防ぐには断熱材をしっかりと入れなくてはなりません。本州の人から見れば驚くほど断熱に力を入れています。およそ本州の1.5倍の厚さがあ



▲ JAおとふけの基礎工事

ります。なぜならその性能によっては、エアコンや暖房のエネルギー費用が大きく変わってくるからです。

Q ただ一つの製品造り

A 同じものを大量に造る製造業と違って、建設業は常にただ一つの製品を様々な職人が協力して造り上げます。何十年もこの仕事をしていても、同じ条件の建物など一つもないのです。その建築物をいかに安全に、そして正確に、なおかつ早く完成させるか工夫を重ね、そして事故なく精度良く美しい製品が完成した時、それまでの苦労も吹っ飛び、自信とやりがいにあふれます。しかもその製品はいつまでも残って、地域の人々に場を提供します。これが私たちの仕事なのです。

Q 地域と建設業

A 最近、気候変動や大地震、火山の噴火など、自然災害が続いています。そうした災害の予防や起きてしまった災害への対応などに、建設業の機動力は大変重要になっています。私たちが安心して暮らすためには、地域にとって一定規模の建設業はなくてはならないものなのです。そして、ひとたび何かあればお役に立てることがある、それも私たち建設業で働く者の覚悟であり、誇りでもあります。

平成29年告示 新学習指導要領

授業が変わる！ 新しい中学社会のポイント

好評
発売中



解説編 新学習指導要領をどう読み解く？

実践編 実力派教師による実践事例を多数収録！

編著：井田仁康（筑波大学）
中尾敏朗（群馬大学）
橋本康弘（福井大学）

定価：1,944円（本体1,800円+税8%）

B5判 216ページ

中東の国 クウェートへ

しんまい大使夫人の目から見たクウェート

新発売



生き生きとした語り口で描く、
等身大のクウェート社会

宗教、衣食住、人々の日常、
そして外交の舞台となる大使館や大使公邸を
著者撮影の豊富な写真とともに紹介

著者：辻原恵里子

定価：1,620円（本体1,500円+税8%）

A5判 128ページ

お求めは、最寄りの書店でお願い致します。

日本文教出版webサイトでは、各教科情報や、教育
読み物、各種ダウンロード資料などを随時公開中！

日文

検索

編集後記

😊 今号の「著者だより」をご執筆いただいた角田将士先生は、ご家族の自由研究のためにお出かけた先で、新学習指導要領を意識した調査をされたそうです。現在のようすと当時のようすと「変化や継続」に着目した結果、新たな発見があったようでした。身近なものも見方・考え方を働かせることで見え方が変わるということですね。

😊 新学習指導要領については弊社発行の『授業が変

わる！ 新しい中学社会のポイント』でもわかりやすく解説しています。ご好評いただいている本書をぜひ多くの先生に手にしていただきたいと思います。

😊 更に、当誌で連載していた『クウェート便り』が、単行本『中東の国 クウェートへ』という題で発刊されました。日本人がよく知らないクウェートという国について、まだ見ぬ面を発見してみてください。

教科書訂正のお詫び（中学社会） ©平成29年に供給いたしました教科書に訂正がございます。先生方におかれましては、弊社Webサイト「中学社会」資料ダウンロードページをご確認のうえご指導いただけますよう、お願い申し上げます。

生誕の地で北斎を楽しむ すみだ北斎美術館

●館長 菊田 寛



美術館の外観▶

すみだ北斎美術館は、平成28年11月22日にオープンした、葛飾北斎やその門人に関する資料作品を中心に展示する美術館である。



▲ 須佐之男命厄神退治之図

北斎は、1760年に生まれ、90年の生涯のほとんどを墨田区内で過ごした。生誕地は、当館が建つ北斎通りの周辺とされている。

当館は、かつての弘前藩津軽家の上屋敷跡地に建っている。かつて北斎が藩主に頼まれて屏風に馬の絵を描いたというエピソードが残る、ゆかりの深い場所である。

当館の常設展示室では、「すみだと北斎」の関わりを第一章として、北斎の生涯にわたる創作活動の変遷を7ブロックに分け、多言語対応タッチパネルを活用しながら代表作品を紹介している。入り口壁面には、みどころの一つである幅276cmの

「^{すまきの おのみことやくじんたいじの ず}須佐之男命厄神退治之図」がある。これは、墨田区内の牛島神社に奉納された北斎86歳の作品で、関東大震災で焼失したが、残された一枚の白黒写真を基に、現代の情報処理技術や写真解析技術を使って原寸大で推定復元したものである。

一方で、美術館の建物全体も大きなみどころになっている。世界的に著名な建築家である妹島和世氏が設計した、アルミパネルで囲われた建物は、季節や時間毎に移り込む風景や色合いを変えて独特のシルエットをつくり出す。複数のスリットで分割された建物は、街に調和しながらも近未来的な斬新さをも備える。

当館は地域に根ざした美術館を目標



▲ 観覧中の小学生たち

指すことから、教育普及事業に力を入れている。なかでも、将来、世界への発信の担い手となる子供達に北斎を知ってもらいたいという願いから、児童・生徒を対象とした観覧プログラムや学校へ出張するプログラムを用意している。

近々の展示では、2月14日から、「Hokusai Beauty ~華やぐ江戸の女たち~」展を開催する。江戸の女性の風俗を中心に、視点を変えながら北斎や弟子が描く作品を多角的に紹介する。当館は、近隣に江戸情緒や文化を伝える庭園や博物館が点在することから、共に江戸文化を発信する中で、北斎の精神を大切にしながら、常に新しいことに挑戦し続ける美術館を目指している。



〒130-0014 東京都墨田区亀沢2-7-2
すみだ北斎美術館 TEL:03-5777-8600 (ハローダイヤル)
公式サイト: <http://hokusai-museum.jp/>

社会科 NAVI Vol.18

日文教育資料 [小・中学校社会]

平成30年(2018年)1月31日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33385

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690